

110周年事業（比較文化学部）

ニュースレター 第6号

オリンピックトーチ展示報告

オリンピックトーチ展示ならびにギリシャ講演会をご担当された渡邊顕彦先生より、展示と講演会の模様を寄稿していただきました。

大妻学院 110 周年を記念する学部事業として、2018 年 9 月 14 日から 23 日にかけて G 棟エントランスホールおよび 3 階アクティブラウンジでオリンピックトーチ展が行われました。1936 年から 2018 年までの夏季・冬季オリンピックおよびパラリンピックで実際に使われたトーチ 34 本、レプリカトーチ 2 本や、ほか採火式の巫女衣装等が展示され、全期間で約 770 名の方々に見学していただきました。



G 棟エントランスホールの様子

今回のトーチ展示は 7 月に日本大学文理学部から始まり、埼玉県三郷市、愛知県稲沢市、東京都新宿区に引き継がれ、大妻女子大学比較文化学部が締めくくりを担当しました。

大妻における展示中は比較文化学部生が見回りや点検を行いました。また展示物設置および撤去には学内の博物館学芸員課程履修生が加わって作業をしました。



展示準備の様子

9 月 21 日(金)には、在日ギリシャ大使館より青木様、諏訪本様にお越しいただき、トーチコレクターのクリム氏と共にギリシャ紹介の講演およびトーチの解説をしていただきました。



レセプションの様子

講演会後のレセプションでは赴任したばかりのカキュシス閣下にも参加していただきました。日本文化の紹介として学生による剣道のパフォーマンスがあった際、カキュシス閣下も素晴らしい木刀の素振りを披露しておられました。

日本ギリシャ協会や埼玉県三郷市職員の方々もレセプションに参加され学生教職員と和やかな懇談の時間をもちました。



レセプションの様子

大妻良馬・コタカ先生より制定された校訓「恥を知れ」は、古代ギリシアの格言「汝自身を知れ」(γνώθι σεαυτόν)との関係が指摘されています。以前から続く大妻とギリシャ、そして日本とギリシャの関係が今回のイベントを経て一層強化されることを願います。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

(以上、渡邊顕彦先生からの寄稿)

カナダ大使館による講演会を開催

比較文化学部が企画する110周年事業のひとつである「大使館リレートーク」企画の第4弾として、10月11日(木)午後、カナダ大使館のクリスティーン・カラハン二等書記官を「アメリカ研究入門 AII (文化と社会)」の授業にお招きして、講演をしていただきました。

「カナダと日本」と題した講演では、カナダの国土と歴史についての紹介があった後、多文化主義への取り組みの例として移民や難民の受け入れ、男女平等(女性の社会進出)、LGBTIの権利についてのお話がありました。さらに、カナダと日本の関係、学生が日本でカナダを学ぶ機会やカナダで学ぶ機会をご紹介いただきました。



講演の様子

講演には、「アメリカ研究入門 AII (文化と社会)」を履修しているアメリカ文化コース専攻の学生、ポスターを見て参加申し込みをした学生、本学の海外研修や語学留学を経験した(あるいはこれから検討している)学生など、たくさんの学生が参加しました。



講演の様子

また、今回はこれまで開催した講演会とは異なり、カナダ大使館の寺内美佐子様(広報部補佐官)のご助言で、

講演中に分からないことや聞きとりにくいところがあればお話を止めて質問をする、という講演の進め方を採用しました。



時に解説や助言を交えてくださった寺内様

最初は講演を聞きながらノートを取るのに意識が向いていた学生でしたが、途中から質問を投げかけるようになり、講演は盛況のうちに終了しました。



質疑応答の様様

多文化主義、移民や難民の受け入れ、女性の社会参画のありよう、LGBTをはじめとする少数派の権利保護といったテーマは、日頃の授業などを通じて学生が少なからず関心を持っているものでした。今回の講演会は、一連のテーマ・トピックにかかわる日本とカナダの取り組みの比較ができた良い機会となりました。

講演会の後は、G棟のアクティブラウンジに場所を移して、コーヒータイムをもうけました。講演の内容にかかわる話題やカナダについての一般的な質問など、学生もカラハン書記官とお話をし、貴重な経験を得ることができました。



コーヒータイムでの談話の様子



コーヒータイム終了時の集合写真

最後になりましたが、この講演会開催にあたってご協力いただいた皆様にはお礼を申し上げます。

110周年事業（比較文化学部）

ニューズレター 第6号

発行日：2018年10月25日

発行者：井上 淳